



たくましい子

No. 11



令和3年(2021年)

1月20日

札幌市立栄北小学校 学校便り

学校ホームページアドレス <http://www16.sapporo-c.ed.jp/sakaekita-e/>

未来へのエネルギーをチャージする1年に！

教頭 中川 容一

令和3年 西暦2021年が始まりました。子どもたちはご家族と共に新年を迎え、希望を新たにしていることと思います。コロナ禍の中ではありましたが、大きな事件・事故に巻き込まれることなく3学期を迎えることができたことに安堵しております。

昨年の幕開けである学校便り1月号巻頭言では、「子年」について伝えさせていただきましたが、引き続き今年も新しい年の干支「丑年」について少し調べてみました。

みなさんもお存知の通り、牛は昔から食料としてだけでなく、農作業や物を運ぶときの労働力として、人間の生活に欠かせない動物でした。勤勉によく働く姿が「誠実さ」を象徴し、身近にいる縁起のよい動物として十二支に加えられたようです。

「昔々神様が、元旦に挨拶にきた動物たちを、一番最初に到着したものから十二番目まで順に、一年のリーダーに決めよう、と動物たちに競争をさせました。」という十二支にまつわる有名な物語はみなさんもどこかで耳にしたことがあると思います。

歩みがのんびりしていることを自覚している牛は、何とか1番になるために誰よりも早く、前の晩のうちから出発します。ところがこっそり牛の背中に乗っていたねずみが、神様の御殿の門が開いた途端に飛び降りたため、ねずみが1番に、そして牛は2番となり、干支の順番は2番目になったというお話があります。

このお話からも分かるように、昔から牛は、のんびり・真面目なイメージがあったと思います。したがって、丑年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年と言われています。牛は、大変な農作業をしっかりと手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「耐える」、「これから発展する前触れ・芽が出る」というような年になるとも言われているそうです。そういう意味で、丑年は、黙々と目の前の事をこなすことが必ず将来につながる、と前向きに考えることができる年と考えてもいいかもしれません。

残念ながら新型コロナウイルス感染症は、まだまだ予断を許さない状況です。学校生活も長期間に渡り、様々な不便を強いられています。いつも通りの活動をさせてあげられない現状に、やり場のない憤りを感じます。ただ、見方を変えたと、日常の生活のありがたさ、今は「密」といわれて制限のある、人との関わりの大切さを見つめ直す貴重な機会とはなっています。感染症対策の下、今できることをしっかりと、これからの子ども達の明るい未来を創り上げていきたいと思っています。

3学期の行事では、参観懇談を分散型の参観としました。スキー学習は、バスを原則一人で2席使用できるように配車予定です。(市からの補助金利用により、バス代金が大幅にあがることはありません)卒業証書授与式は、卒業生と保護者各家庭一名の参加で、内容を精選しながら実施します。今できることを考え工夫しながら学校生活を行っていきたいと思います。

まだまだ通常の学校生活には戻れませんが、何より子ども達の「安全・安心」を最優先に考えていきたいと思っています。ご理解・ご協力をお願いいたします。